

平成28年度 第28回 数理分子生命理学セミナー

日時：平成29年1月18日(水) 14:35～

場所：理学部 E211 講義室

講師：富樫祐一先生（数理分子生命理学専攻

クロマチン動態数理研究拠点・特任准教授）

中川正基先生（数理分子生命理学専攻

クロマチン動態数理研究拠点・特任助教）

演題：・モデル化で見えるもの、モデル化で隠されるもの。

・モデル化されても残る理論的な課題のお話し

要旨：

生物は、細胞1個であっても様々な分子からなる複雑なシステムで、それをどのような切り口から研究するかは一通りではありません。特に、数理的・計算科学的な研究では、その第一歩である「モデル化」が、研究の行方を左右することもあります。

前半では、このような複雑システムをモデル化する際の落とし穴と、従来のモデルで無視されていた要素—反応拡散系における「少数」—に注目した研究についてお話しします。（富樫）

後半では、少数分子反応系の振る舞いを記述する方程式やその解析手法などの理論的な研究についてお話しします。（中川）